

ともに地域の発展をめざします

学校見学受け入れ

akebonoは社会貢献の一環として、小学校から自動車大学校まで広く教育機関の見学を受け入れています。2010年5月には日産学園日産栃木自動車大学校の学生24名と教員3名の方々が岩槻製造(株)を訪れ、製造工程を見学されました。日頃自動車整備を学んでいる皆さんとあって、真剣な眼差しでラインの動きを見つめ、ブレーキ作動時の鳴きをなくす工夫や点検の周期などについての質問が飛んでいました。また、Ai-Cityには2010年度、近隣の11小学校、計1,379名の児童が来社し、社



員の説明に聞き入り熱心にメモをとる姿が見られました。

日産学園日産栃木自動車大学校生の工場見学
(2010年5月25日)

埼玉大学教育学部附属小学校の工場見学(2010年11月19日)



地域清掃・緑化活動

akebonoは全拠点で地域の美化活動に貢献しています。福島製造(株)では2010年5月、会社周辺の道路の清掃を行いました。社員はもとより、その家族や子どもたちに加え、本社新入社員実習生を含め、総勢70名が参加。収集したゴミは1時間で15袋にもなり、地域貢献につながる有意義な1日になりました。

山形製造(株)では2010年6月に班長会が主体となって街路樹の花壇に花植えを行いました。当日は有志が多数参加し、赤とピンクのペゴニアの苗を18カ所に定植。その後も班長会のメンバーが交代で手入れを続けています。



福島製造(株)清掃ボランティア
(2010年5月9日)

山形製造(株)の街路の花植え(2010年6月)



地域社会との交流活動

福島製造(株)ではボランティア活動の一環として、あけぼの太鼓の出張演奏を行っています。2010年10月には「桑折宿」街道まつりに招待され、太鼓部に所属する保専生*がきりりとした表情で威勢のいい太鼓を披露しました。町をあげてのイベントである秋祭りを盛り上げるという大役を果たし、地域社会とのつながりの強さを感じるとともに、地域の皆様とのコミュニケーションを深めることができました。



「桑折宿」街道まつりでの演奏
(2010年10月17日)

*保専生：就職進学制度を利用してakebonoで働きながら学校に通う社員。

TOPICS

曙ブレーキ工業労働組合の社会貢献活動

労働組合では2010年度も施設のお手伝いや日常的に参加できるアルミ缶の回収(1,000kgで車椅子1台寄贈)、国際貢献の一環として使用済みインクカートリッジ回収活動(ダルニー奨学金制度へ協賛)、交通遺児等を支援する会のチャリティーバザーへの物品提供など、さまざまな活動を行いました。財団法人国際センター主催の研修ではラオスを訪問して子どもたちとともに生活し、連合救済ボランティアでは東日本大震災の復旧支援にもスタッフを派遣。支援を必要としている地域の方々の課題解決に向けた取り組みを進めました。労働組合ではこれからも継続的に支援の輪を広げていきます。



ラオスでの国際貢献ボランティア
(2011年3月)

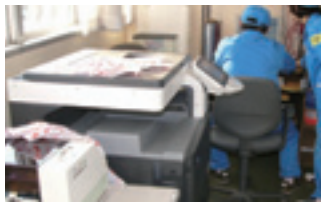


連合救済ボランティアへの参加～東日本大震災(宮城)～(2011年4月)

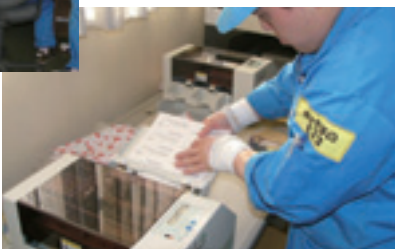
障がい者の雇用機会の拡大に努めています

akebonoの障がい者雇用

あけぼの123(株)は「小さなことから始める、1から始める」と「会社と社会、健常者と障がい者の方の二人三脚で一番良い会社をめざす」という想いを込め、2003年に事業を開始しました。2004年4月には埼玉県内の製造業部門で初めて特例子会社に認定され、清掃作業、梱包作業や帳票のファイリング作業など事業領域を広げ、現在は指導員5名、社員20名へと拡大しました。2010年度からは新たに国内akebonoグループ社員の名刺制作を開始し、内製化によるコスト削減が期待されています。すべてのビジネスが「名刺交換」からはじまるとすれば、あけぼの123の事業がakebonoグループのビジネスの起点になるともいえます。これまでAi-City地区に限定されていた事業が、日本全国で展開することとなり、今後もあけぼの123は「社員を人として育てる」ことを会社方針として、障がい者の雇用機会の拡大に努めます。



パソコンからデータを取り込み、左奥にある印刷機で名刺を印刷する。左手前にあるのが裁断機



印刷された名刺を裁断機にセットする作業

特例子会社連絡会を開催

2011年1月21日に平成22年度第2回特例子会社連絡会がAi-Cityで開催されました。埼玉県内の特例子会社12社とオプザーバー3社より合計35名が集まり、あけぼの123の取り組みを広く知っていただきました。

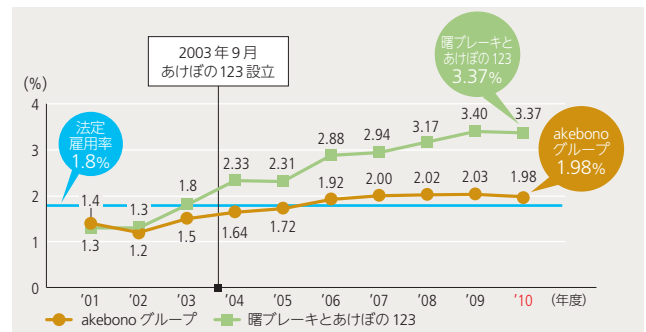


連絡会での工場見学風景(袋詰め工程)



ACWカンファレンスホールで開催された連絡会

akebonoグループの障がい者雇用率推移



TOPICS

納涼祭

2010年7月から8月にかけて、Ai-City(本社)および日本各地の生産拠点で納涼祭を開催しました。2年ぶりの開催となり、たくさんの社員や近隣地域の方にお越しいただき、大盛況となりました。山陽製造(株)では納涼祭としては初めての開催で、1,800名の来場者を迎えることができました。



山形製造(株) (7月31日)



Ai-City (7月31日)



福島製造(株) (7月31日)



岩槻製造(株) (8月21日)



山陽製造(株) (8月21日)



地域の活動に積極的に取り組んでいます

米国：地元共同体への参画

北米拠点では多くの社員が地域の評議会、協議会に属し、地域社会の課題解決に取り組んでいます。Akebono Brake Corporation (ABC)では、自動車関連企業の要望を州の法規や法制に反映するケンタッキー州自動車産業協議会の委員や、ケンタッキー州知事の諮問機関である日系企業諮問委員会の委員、ユナイテッド・ウェイのケンタッキー州役員として災害発生地域の支援、衣食住の支援を必要としている人々の支援やドメスティックバイオレンス被害者の救済などに参画しています。Akebono Brake, Elizabeth Plant (ABE)では、就業機会の開発と雇用機会の創出を行うリンカーン・トレール地区労働力投資委員会の役員や、社員の技能向上のための訓練プログラムを開発するエリザベスタウン工業育成財団の議長に就任。Akebono Brake, Glasgow Plantでは、地域の方々のための職業訓練プログラムを開発するバレン・リバー地区の職業訓練機関の委員を務めています。Akebono Brake, Clarksville Plantでは、地域の産業動向の調査や異業種交流を行うクラークスビル/モンゴメリー産業協議会の理事長や委員として、地元共同体の活動に積極的に参加しています。

米国：小児まひ救済募金運動

ABEとABCの社員は毎年マーチ・オブ・ダイムと呼ばれる募金キャンペーンに参加しています。これは小児まひや早産を防止し、乳幼児死亡率を低下させる研究と教育を支援する活動です。すべての赤ちゃんが健康を脅かす要因に打ち勝つため、研究者、ボランティア、教育者が奉仕活動に従事している人々と連携して取り組んでいます。



募金キャンペーンに参加した社員

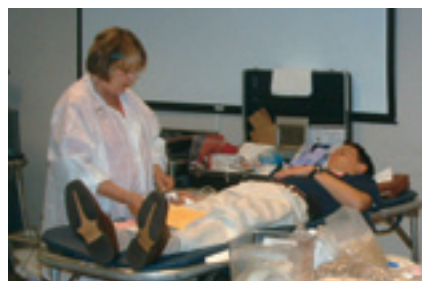
米国：地元高校生への奨学金制度

ABCでは、地元エリザベスタウン高校とハーディン中央高校の卒業生を対象とした奨学金制度を運用しています。高校卒業後に技術課程に進む学生に対して支援を行うもので、将来エンジニアとなって社会に貢献する人財の育成と、地域の若者の就業機会の拡大を狙っています。

*海外拠点の正式名称はp.67に掲載しています。

米国：献血活動

ミシガン州のAkebono Engineering Center (AEC)で人事管理コーディネーターを務めるロザンヌドマンスキーは、自身の母親が闘病に多くの輸血を必要とした経験から、過去6年間、米国赤十字社に代わって献血活動を行っています。AECではもともと1990年代から毎年献血を実施していましたが、ロザンヌがこのプロジェクトを引き継いですぐ、赤十字社が設定した目標を上回るようになりました。献血活動における社員の参加を促した功績からakebonoは彼女に感謝状を贈りました。



AECの献血活動

フランス：インターン生の受け入れ

Akebono Europe (Arras)では、周辺地域の高等学校、専門学校からインターン生を積極的に受け入れています。これは学校の教育課程への協力に留まらず、次世代を担う人財である地元の若者に対する職業選択の支援と、地域の方々にakebonoの事業への理解を深めていただく機会と捉えています。

2010年度は、前年度の2倍を超える23名のインターン生を受け入れ、延べ日数は605日にも上りました。今後も継続してインターン生の受け入れを積極的に行うことで、地域社会におけるakebonoの役割を果たしていきます。

タイ：障がい者施設訪問

Akebono Brake (Thailand) Co., Ltd. (AKBT)では、地域社会へのボランティアの一環として、社員からの募金で購入したプレゼントを持参し、障がい者施設の訪問を行っています。施設には身体の不自由な方々がアクセサリーを作る工房があります。アクセサリー制作とブレーキ製造、同じモノづくりに関わる者同士、やりがいや苦労などの意見交換を通して交流を深めています。

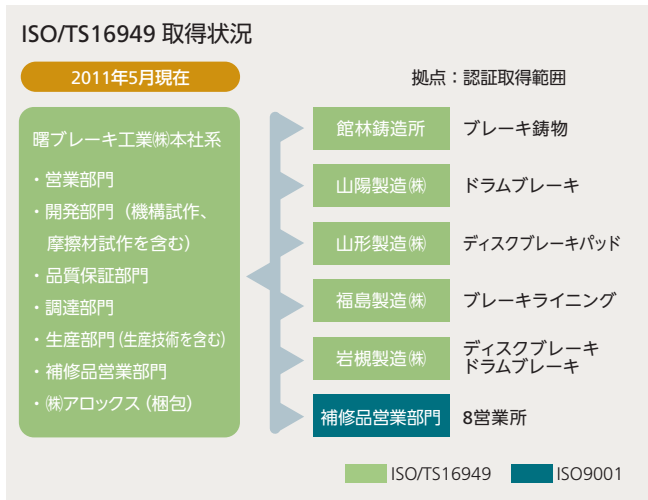


参加したAKBT社員と施設の方々

品質を高め、お客様満足につながる製品づくりをめざします

品質マネジメントシステム (ISO/TS16949)

品質マネジメントシステムの一つであるISO/TS16949は、海外の自動車メーカーで導入されている一般的な品質マネジメントシステムです。akebonoでは、日本の自動車メーカーおよび海外の自動車メーカーとの取引に際して、ISO9001およびISO/TS16949の認証取得を進めています。2011年度は独自に認証取得・運用をしていた一部の国内生産拠点をakebonoグループ全体の管理・運用に含めます。



自動車メーカーからの表彰

2011年2月、トヨタ自動車(株)「2011年トヨタグローバル仕入先総会表彰式」において「品質管理優秀賞」を受賞しました。akebonoは6年連続の受賞となり、全社を挙げた品質管理の取り組みとその成果を評価されたものと受け止めています。また、日産自動車(株)より「アフターセールス商品優秀企業表彰 ベストパフォーマンス賞」を3年連続で受賞しました。これらの受賞に慢心することなく、製品の安定した品質の維持管理に向けた取り組みを続けていきます。



トヨタ自動車(株)より品質管理優秀賞を受賞



日産自動車(株)よりベストパフォーマンス賞を受賞

使用段階における製品の安全・安心を確保する取り組み

akebonoは社会に安全・安心を提供する製品の開発・生産にとどまらず、世の中の人々が安全に安心して自動車を利用できるように、使用過程における製品の安全・安心にも注意を払っています。ブレーキ技術教育巡回車を用いて日本各地の整備工場や自動車ディーラーの整備士の方々にブレーキの適正な整備方法や交換時期の見分け方などの講習を行っています。例えば、ブレーキを整備する際のグリス塗布の注意点や、車検で交換した摩擦材の組み付け最終チェックポイントなどの講習を行います。2010年度は講習会を182回実施し、合計5,902名にご参加いただきました。



自動車ディーラーでの講習会

また、akebonoは市場情報の調査・分析によって、市場の変化を絶えずモニターしています。調査の過程で使用条件の違いによる摩擦材の寿命の違いや、市場が期待する性能の発見などがあり、それらの情報を製品開発や品質保証の現場に逐次フィードバックすることで、さらに安全で安心な製品づくりに結びつけています。2010年には、市場情報の分析をもとに乗用車用摩擦材の改良につなげた事例もありました。

将来に向けて

akebonoは、世界最高峰の自動車レースであるF1に2007年からブレーキキャリパーとマスターシリンダーを供給しています。レースでは徹底した軽量化と高剛性などの相反した性能と、優れた冷却性能、信頼性を非常に高い次元で実現させることを求められます。レースを通じて得られた軽量化や冷却性能を高める技術を、将来の製品開発に活かし、多くのお客様に使っていただける日が来ることを目標にしています。



akebono製キャリパーを装着したF1マシン

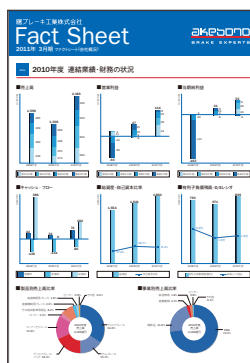
継続的かつ地道な情報開示を進めます

株主の皆様に向けて当社へのご理解を深めていただくために、株主総会時に「経営近況報告会」を毎年開催し当社の業績予測や事業戦略、中期経営計画などの説明を行っています。また、証券アナリストや機関投資家の方々には、年2回「決算説明会」を開催しているほか、2007年からは海外の機関投資家との個別ミーティングも実施しています。経営近況報告会や決算説明会で説明に用いた資料や決算短信、ファクトシートなどの情報は当社ホームページの「株主・投資家の皆様へ」に随時掲載しています。



決算説明会(2011年5月12日)

金融商品取引法、会社法、その他の法令や証券取引所の開示ルールに基づいた情報開示については、当社ホームページへの掲載、東京証券取引所TDnetなどの媒体を活用し、公平・公正な情報開示に努めています。株主・投資家の皆様に当社の進む方向性や取り組みなどをご理解いただくため、情報発信の充実や説明会の実施など継続的かつ地道に進めていきます。



ファクトシート(2010年度 通期)



グローバルでの成長をとともにめざします

akebonoは「同じ目線とともに学ぶ」という方針のもと、主要なお取引先様で構成される誠和会を中心として、お取引先様とのパートナーシップの強化をめざした取り組みを行っています。

日本では、会社方針や事業戦略を説明するお取引先様総会「パートナーシップ2011」を2011年2月ホテルオークラ東京にて実施し、84社164名の方々にご参加いただきました。

これまでサプライチェーンの枠組みの中で「品質改善」や「環境負荷低減」などに継続的に取り組んできました。2011年は、お取引先様とakebonoのさらなる信頼関係の構築をめざした展開を計画しています。具体的には品質、製品の仕様や造り方、コストの面において、それぞれのお取引先様の特色を活かしながらakebonoが具体的案件の一つひとつに深く関与し、お取引先様と一緒に造りやすい仕様の確立や造り方の改善などを行おうとしています。お取引先様とともに品質やコストにおいて競争力ある製品づくりをめざします。

(2010年度のお取引先様との取り組みについては、p.35も合わせてご参照ください。)



誠和会会員53社62名が参加された実務担当者研修会(2010年10月22日)。調達部門と福島製造(株)がタイアップし、福島製造(株)における4Sの対応、工程管理などを紹介しました。

沸き立つ会社をめざして

コーポレートブランド(CB)推進活動

akebonoは、2005年から企業価値の向上をめざしたCB推進の全社横断的な会議を定期的で開催しています。各部門におけるCB向上に向けた取り組みを会議で共有し、部門を横断した取り組みの提案や施策決定を行っています。2010年度は合計12回の全社会議を開催しました。

また、自動車メーカーやお取引先様を対象としたアンケート調査を定期的の実施しています。これは、CB推進活動の結果を定点観測するとともに、お客様やお取引先様からの意見や要望を把握することを目的としています。アンケートの結果を分析することでステークホルダーの期待を理解し、各部門の具体的な取り組みに反映しています。



部門単位でもCB会議を実施(2011年2月25日)

ワクワクステーション

akebonoは、社員の誇りを促す取り組みとして「ワクワクステーション」という施設を国内全拠点に整備しています。情報ボードと呼ばれる掲示板を用いてakebonoに関する多様な情報が社員に対して発信されます。新製品に関する情報やF1に関する情報など、さまざまな場面でakebono製品がお客様の役に立っていること、あるいはakebono製品の活躍の様子が見られるようになっていきます。また、生産拠点における取り組みもワクワクステーションを使って全社に配信されます。岩槻製造(株)で起こっていることを掲示情報を通じて福島製造(株)のワクワクステーションで見られるなど、社員がakebonoグループの一体感を感じながらその魅力を高めていこうという気運につなげていくことをめざしています。2010年度は203件の情報が全社に発信されました。



福島製造(株)ワクワクステーション



Ai-Cityワクワクステーション

TOPICS

akebono 参観日

akebonoでは「家族に誇れるブランドを」という考え方をCB推進活動の中で大切にしています。この考え方を実践する取り組みの一つに社員の家族のための職場見学会「akebono参観日」があります。

2010年度は館林製造所(参加120名)、福島製造(株)(同32名)、山陽製造(株)(同20名)、Ai-City本社(同103名)、岩槻製造(株)(同69名)で実施し、合計で344名の社員の家族が参加しました。職場見学した家族からは「お父さん、かっこよかったです。これからもがんばってね(小学生の娘さんより)」や「転勤して1年。夫がどんなところで働いているか心配していましたが、元気に仕事をしてくれて安心しました(奥様より)」「家に帰ったら、子どもがパパのブレーキを造る動作をマネするようになりました。その仕草がとてもかわいいです(奥様より)」などの感想が寄せられました。職場に対する家族の理解が深まることで、社員の自社への誇りにつながることを期待しています。

ブレーキの仕組みを紹介
(館林製造所 2010年7月3日)昼食体験
(福島製造(株) 2010年7月27日)参加された家族の皆さん
(山陽製造(株) 2010年8月26日)ブレーキの組み付け体験
(岩槻製造(株) 2010年11月23日)

グローバルに活躍できる人財づくり

人事基本理念

「会社を成功に導く最も重要なファクターは『人財（社員）』である」という考えのもと、「社員一人ひとりに機会を提供し、会社の成功を共に分かち合える社員を支え続けていくこと」を基本方針として、「個の確立」と「相互の尊敬と信頼」を基盤に、グローバルでの長期人事政策の構築をめざしています。

人財開発・人事制度

国籍を問わず、適切な人財を適切なポジションで、適切な地域とプログラムを任せることを理想として教育プログラムや人事制度の整備を進めています。これまで、各地域で独自の教育プログラムや人事制度を運用していた中で、特に国籍や言語・文化の異なるメンバーで同じプログラムに取り組む機会が少なかった日本の社員のグローバル対応力を高めます。「コミュニケーション能力」「異文化対応能力」「言語能力」に注目して人財育成プログラムの強化を図ります。

グローバル教育プログラム

■Akebono Standard Packageの導入

akebonoに入社する方々の研修プログラムとして全世界のakebonoグループで統一した教育パッケージの準備を進めています。akebonoの成り立ちや歴史、地域ごとの事業の特徴に始まり、APSやコーポレートブランド経営などのakebonoの企業文化や哲学をまとめます。これにより、akebono社員として共通で身に着けておきたい基本的な知識や考え方の統一を図ると同時に、地域ごとの特色を活かしたオリジナルプログラムを追加することでそれぞれの国や拠点ごとにふさわしい教育プログラムを確立します。Akebono Standard Packageは2011年から順次導入を開始し、2012年度中には全世界のakebono拠点での展開を目標としています。

■グローバルリーダー研修

海外を含む各拠点のマネジメント層を対象としたグローバルリーダー研修を2011年度に計画しています。各拠点の中核的役割を担う人財を一堂に集め、グローバル事業戦略の共有や各国・地域の役割をお互いに理解し、認め合うことで、グローバルakebonoとしての一体感と相互理解の確立をめざした取り組みです。初回は日本での開催を予定しており、実施に向けた準備作業を進めています。

ダイバーシティ

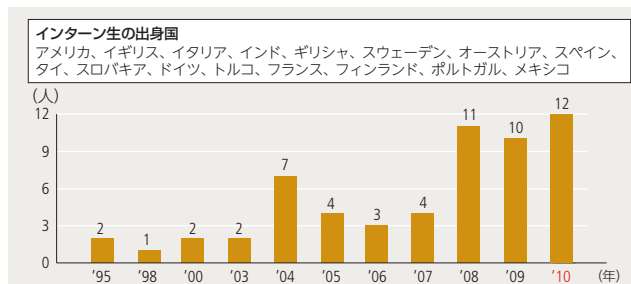
■インターンシップ

akebonoはニーズの多様化とグローバルでの市場展開に伴う社員の国際感覚の醸成と、日本国籍以外の若者に対する職業選択の支援をめざし、インターンシップを積極的に推進しています。2011年度は本社系の各職場に1名以上のインターン生が在籍する状態をめざします。さまざまな国籍の人が集まり、社員とインターン生が同じプログラムに関わる環境を創り出すことで、グローバル人財の下地づくりを進めます。



若手社員とインターン生が参加した異文化ワークショップ
(Ai-City 2010年11月9日)

インターン生受け入れ人数の推移



ワークライフバランス

■基本的な考え方

akebonoでは、社員一人ひとりが大切にしている価値観を認め、その多様性を尊重することで、企業力を高めることを狙いとしています。すなわち、その人らしい働き方や生き方を尊重することが仕事における創造的な発想につながり、それらの集積した結果として企業の活力が高まることを期待しています。2010年度の有給休暇取得日数は国内akebonoグループ全社員の平均で一人当たり14日でした。

■社員育児休業制度

「社員育児休業制度」は法定基準を上回る制度を整備しています。育児休業は3歳まで、育児短時間勤務では小学校6年生まで同制度の利用が可能です。また、仕事と子育ての両立ができる職場環境づくりへの取り組みや育児支援制度の充実が評価され、内閣府より「子ども若者育成・子育て支援功労者表彰」の「チャイルドユースサポート章」を2010年11月に受章しました。



内閣府から授与された盾



育児休職中の春山和江（法務・知的財産部）

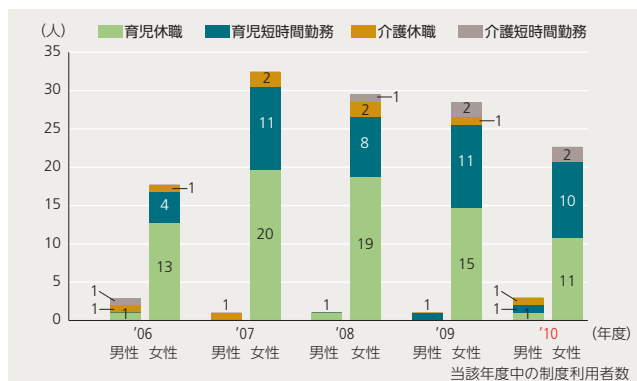
■ ボランティア休職制度

1992年に制度整備を行ったボランティア休職制度に、2010年度に初めて利用者が出ました。利用者は、2010年6月から2年間、JICA 青年海外協力隊の理数科教師隊員として、ガーナ（アフリカ）でボランティア活動を行っています。



「会社に復帰した際は、小さな形でも仕事で何かを還元したい。自分が先駆けて協力隊へ現職参加することで、世界に出ていく後輩が続くことを願っています」。森田剛旭（自動車営業部門）

akebonoグループの制度利用者



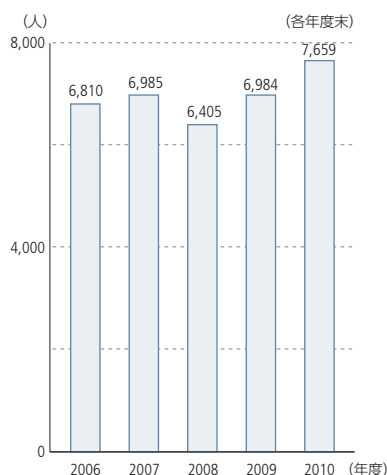
*2010年度利用者のうち法定基準を上回る条件での利用者は、育児休職で2名、育児短時間勤務で4名です。

■ キャリアパートナープラン

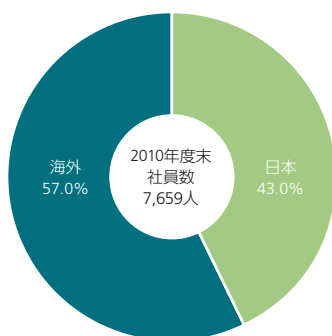
「キャリアパートナープラン」は子育てや介護、配偶者の海外転勤などの家庭責任を理由に退職した社員に、再びakebonoで働く機会を提供する制度です。2008年4月に制度を導入し現在5名が登録しています。2010年度は登録者のうち1名が同制度を利用して再びakebonoの社員として働き始めました。

■ 社員の状況(連結)

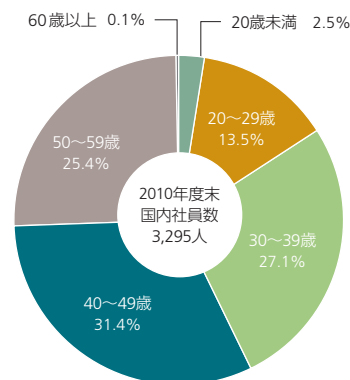
社員数



国内・海外社員数比率



国内年齢別社員割合



*海外拠点の正式名称はp.67に掲載しています。

モノづくりに強いグローバル人財を育てます

モノづくりセンターの取り組み

「生産現場を強くできるグローバル人財を育成する」ことを目的に2006年開設されたモノづくり道場は、2010年度、各製造拠点で進められている最適な標準作業の普及・浸透を行う「基礎技能教室」と、工程のあるべき姿を示す「お手本ライン」の機能を統合し、「モノづくりセンター」として新たなスタートを切りました。

モノづくりセンターは「モノづくりの原理・原則」を、誰でも、いつでも、短期間で自ら学び体験し、仲間づくりを行う場です。これまでの「安全道場」「APS道場」「保全道場」「環境道場」「摩擦材道場」に、2010年度に新たに「品質道場」を加え合計6つの道場で運営を行っています。すべての研修プログラムに体験学習が用意されていることがモノづくりセンターの大きな特徴です。座学+体験⇒検定の流れで学習し、研修生が職場で本当に役立つ成果を持ち帰ることが狙いです。2011年3月までの5年間に合計1,326名の方が受講しました。

2010年度はグローバル化への対応も開始しました。北米拠点Akebono Brake, Clarksville Plant (ABCT)、Columbia Plant (ABCS) の両工場長を筆頭に、海外から41名の仲間を研修生として受け入れました。akebonoが第3の転換期を迎える中、モノづくりセンターは海外拠点に「akebonoのモノづくりのよさ」「日本のモノづくりのよさ」を発信する役割も担っています。



基礎技能教室での新入生研修



研修を受けるABCT、ABCSの両工場長

海外拠点からの研修生

2011年2月には、北米ABCT、ABCSから7名の研修生を受け入れました。APS道場、品質道場を中心に研修を実施し、「ここで学んだことをアメリカの工場に持ち帰り、改善活動に活かしていきたい」という感想が寄せられました。



海外研修生の研修風景



研修生とモノづくりセンターのスタッフ一同

*海外拠点の正式名称はp.67に掲載しています。

■お取引先様からの研修生

お取引先様の組織である誠和会の方々にもakebono流モノづくりの原理・原則を体験していただく機会を設けています。2010年度には延べ14名にAPS道場の5日間の基礎コースへご参加いただきました。これからもお取引先様と「同じ目線でともに学ぶ」取り組みを実践していきます。



誠和会の研修風景

■地元企業からの研修生

2011年3月には、埼玉県中小企業振興公社（2011年4月より埼玉県産業振興公社へ改称）主催のモノづくり体験研修が開催され、埼玉県内の企業から32名の方々にAPS道場と安全道場を体験していただきました。体験研修を通じて地域産業の発展に貢献していきます。



体験研修を受ける参加者の方々

APS公開講座の実施

2010年度から、APS (Akebono Production System) の理解をさらに社内に浸透させるため、職種に関係なく社員が自由に応募できる公開講座を開設しました。APSの思想を理解し、業務の効率化と、経営に寄与する人材づくりをめざしています。講座では、教材を使った体験学習、生産現場での体験研修を行っています。2010年度は2回実施し合計35名が参加しました。



座学でAPSの考え方を学ぶ

自工程完結による
可動率向上体験



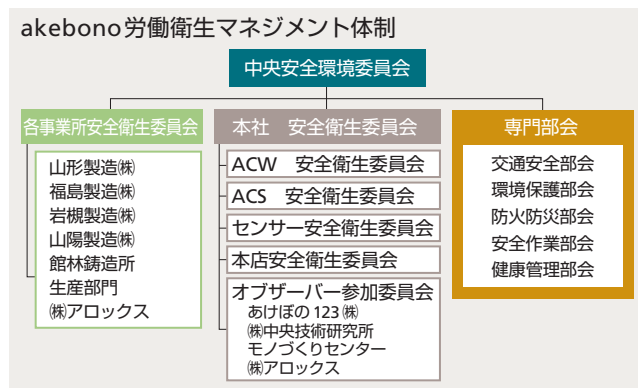
現場の改善提案の発表



労働安全衛生

社員の安全と健康の確保

akebonoグループの安全衛生健康活動は「曙の理念」と「akebono21世紀宣言」をもとに策定され、中央安全環境委員会を頂点とするakebono安全衛生マネジメント体制により、社員の「安全と健康」を確保し、緊急事態の発生防止を徹底しています。2010年7月の山形製造(株)での中央安全環境委員会では国内グループから33名が参加し、リスクアセスメントの観点から改善活動を行いました。



太田労働基準監督署長より表彰状授与

館林製造所での「安全の鐘パトロール」や安全体験機の設置などの安全啓発活動が評価され、2010年10月の「館林地区産業安全衛生大会」において太田労働基準監督署長より表彰されました。今後も賞に恥じない活動を進めていきます。



資格取得への挑戦

山陽製造(株)の大塚元明は、合格率20%といわれる数値制御旋盤国家技能検定2級に合格。その1年後、スキルアップした自分の能力を形にしたいという思いから、さらなる難関である1級に挑戦し、見事合格しました。

「無事合格できたのは、上司の後押しと先輩の「お前ならできる」という声援のおかげです」

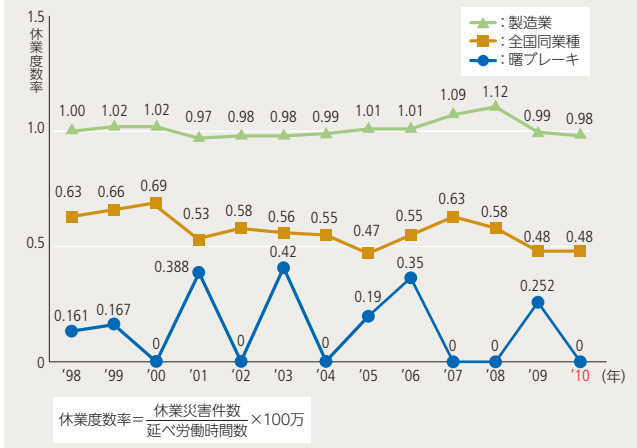
山陽製造(株)
製造2部 製造4課 シンダー加工係
大塚 元明



(株)アロックス 交通無災害 3,700日達成

国内生産拠点間の輸送や生産拠点からお客様への納入など、akebonoグループ製品の輸送を担う(株)アロックスでは、2000年から数えて10年間、製品輸送時はもとより社員の通勤途上や勤務時間外においても交通災害を起こさない「交通無災害3,700日」を達成しました。製品を通して社会に安全・安心を提供するakebonoグループは、「物流」においても社会に安全・安心を提供し続けています。

akebono労働災害発生率(休業度数率)



アスベスト問題への取り組み

akebonoは1970年代に、日本の企業のなかでもいち早くノンアスベスト製品の研究開発に取り組みました。1992年には乗用車OEM(新車組付)用製品、1994年には商用車OEM製品のノンアスベスト製品への切り替えを完了し、補修部品についても2000年以降はアスベスト製品の生産を全面的に中止しています。2005年7月には、社内に「石綿特別委員会」を設置。同年8月から各グループ企業に「健康相談室」を設置し、周辺住民の皆様、退職者とそのご家族を対象に健康診断(費用当社負担)を実施し、今後も継続する計画です。2011年3月末現在で健康診断の累計受診者は587名となりました。

健康診断受診者数内訳(2005年8月～2011年3月末現在)

()内は前年度からの増加数

	退職者	退職者ご家族	周辺住民	合計
石綿肺所見あり	41名 (+1名)	0名	0名	41名 (+1名)
塵肺所見あり	15名	0名	0名	15名
所見なし	382名 (+13名)	37名 (+2名)	112名 (+2名)	531名 (+17名)
受診者合計	438名 (+14名)	37名 (+2名)	112名 (+2名)	587名 (+18名)

TOPICS

海外拠点での労働安全衛生への取り組み

■米国:Akebono Engineering Center (AEC)
Bring Your Kids to Work Day

AECでは毎年社員の子どもたちが「一日社員」を体験できるイベントを企画しています。社員と子どもたちは朝一緒に出社し、職場や施設内の見学や作業体験など、一日行動をともにします。子どもたちが仕事への理解を深めると同時に、社員のモチベーション向上にも役立っています。



Bring Your Kids to Work Day (2011年4月28日)

■タイ:Akebono Brake (Thailand) Co., Ltd. (AKBT)
職場の親睦を深める活動

AKBTでは毎年4月13日～15日に行われるタイの旧正月であるソンクラーンで、社内でお清めの儀式を行った後、お互いに水を掛け合う水掛け祭に変貌するのが恒例で、親睦を深める大切な行事の一つとなっています。2010年度の社員旅行では、Nakornnayokに1泊2日で行き、交流を深めました。毎年12月の年末休暇前には、New Year Party & Sports Dayを開催しています。午前中は僧侶を招いて工場内各所をお清めいただき、午後は運動会。全社員が2チームに分かれて競技を楽しみます。



ソンクラーン(旧正月の水掛け祭り)



社員旅行



Sports Dayでの様子

■中国:広州曙光制動器有限公司(広州曙光)の安全な職場づくりをめざして

広州曙光では、月2回、誕生月の社員と幹部社員で誕生懇談会を行い、食事をともにしながら会社への提言や意見を聞き、経営に反映しています。また、毎年、全社職場旅行を実施し、社員同士の親睦を深めるとともに、モチベーションの向上に役立てています。安全面では避難訓練のほか、曙光制動器(蘇州)有限公司と協同で安全衛生の相互交流と改善活動なども行っています。努力の成果として広州曙光では無災害1,000日を達成しました。



誕生懇談会

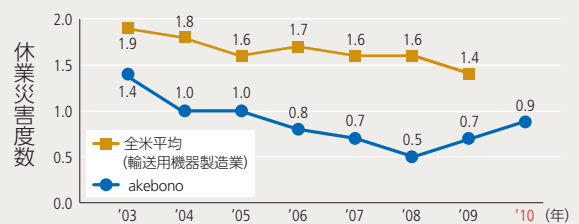


職場旅行



無災害1,000日を記念し、安全旗掲揚式

akebono米国内工場の休業災害度数



上図は米国労働安全衛生局の休業災害度数の算出方法に基づき提出されたデータです。2003年から2009年はABG、ABEのデータです。2010年よりABCS、ABCTのデータを加えています。2010年の全米平均データは2011年6月10日現在、未公表のため空欄となっています。

*海外拠点の正式名称はp.67に掲載しています。

社員自らで健康を守る取り組みを進めています

akebonoは、自分の健康は自分で守る「自己保健義務」を基本方針として、人事総務部門に健康管理室を設置し、社員とその家族の健康を守る取り組みを進めています。また、新勤怠管理システムの導入により、社員一人ひとりが就業データを自己の健康管理に活用できる仕組みも整えました。

健康管理体制の強化

■健康管理情報の一元管理

akebonoでは、健康診断の結果など、国内グループ全社員の健康管理情報のデータベース化を進めています。人事異動などで勤務地が変わっても、異動先の産業医および保健スタッフが的確な健康指導を行える体制を構築します。

■定期健康診断、人間ドック

定期健康診断では、2011年度より受診項目における30歳以上の年齢制限を撤廃し、全社員がすべての項目を受診するよう変更します。また40歳から、5年おきの定期的な人間ドックの受診で、疾病の早期発見と治療および社員一人ひとりの健康維持・管理に役立てます。

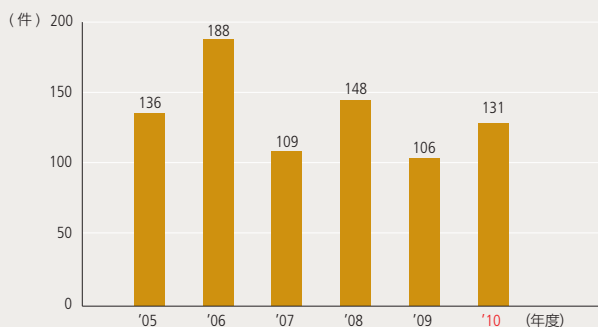
厚生労働省「がん検診企業アクション 推進パートナー企業」への登録



がん検診登録証

akebonoは「がん」に対する理解を深め、がん検診の受診を促進するため、2011年1月「がん検診企業アクション 推進パートナー企業」に登録しました。キャンペーンでは「がん検診のススメ」と題した小冊子を社員に配布し、社員とその家族に対して早期発見、早期治療の有効性を啓発しました。

Ai-City(本社)の医務室面談数



メンタルヘルスへの取り組み

akebonoは、メンタルヘルスを社員の健康管理上の重要な課題の一つと捉え、メンタルヘルス講習会を国内全拠点で実施しています。臨床心理士による2010年度の相談件数は前年度比で2倍の167件となりました。2010年度から開始した自己診断形式による「メンタルヘルス職場診断」は、社員一人ひとりのメンタルヘルスに対する関心を高めると期待しています。今後もメンタルヘルス職場診断は継続的に実施する予定です。



福島製造(株)で開催された「こころの健康管理メンタルヘルス研修会」(2010年12月2日、9日)

TOPICS

米国拠点での乳がん撲滅キャンペーン

乳がん撲滅キャンペーン月間の2010年10月、米国Akebono Brake, Clarksville Plantの全女性社員を対象に健診カードを入れたギフトバックを配布し、健診受診の促進と早期発見の重要性をアピールしました。写生大会のイベントも開催し、乳がん撲滅キャンペーンのシンボルである「ピンクのリボン」にちなんだ景品を配布しました。

■「健康あげぼの21」

健康支援プログラム「健康あげぼの21」(目標設定型健康づくり運動)では、2005年から社員と家族の健康をサポートし、楽しみながらできる健康づくりプログラムの継続拡大をめざしています。

「健康あげぼの21」参加者数

